

JOFIOSAKA Vol.15

2005年(平成17年)2月5日発行 発行者/大阪府釣りインストラクター連絡機構

本部=大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階 tel.06-6245-4800 fax.06-6245-1360 広報=大阪市北区天神橋3-8-15-301フィッシュマン内 tel.06-6358-4414 fax.06-6358-4445



JOFI大阪のみなさんへ 来田仁成 (JOFI大阪代表)

環境省のオオクチバス特定種指定や国土交通省のSOLAS条約による港湾の立ち入り制限、水産庁の都道府県漁業調整規則改正による撒き餌解禁の経緯など、釣りの世界が騒然としています。

それぞれの湖沼や、防波堤などそれぞれのジャンルで、釣り人のマナーの悪さが指摘され、釣りの健全性に対し、疑問符が投げかけられる機会も増えています。

いま、私たちがなすべきことは、釣りという“あそび”を楽しむ人々への社会的な認識の再確認を求めて、実際行動を起こすことではないかと思えます。

JOFI大阪のみなさんには、これまでかなりなご負担をかけながら、ボランティア活動を実施していただきました。さらに釣りインストラクター、フィッシングマスターの資格試験にあたって、多くの方々に、献身的なご協力をいただき、新しい仲間を増やすことが出来ました。感謝に耐えません。

こうした皆さんのご努力の輪をさらに広げるべく、平成17年には、近畿全域の釣りインストラクターのみなさんにも向けて、呼びかけを開始したいと思っております。そのための研修会も現在計画当中です。釣りの未来にかけて、いま一段のご協力をお願いします。



2004年 釣り行政の記録 (平成16年12月14日・水産庁遊漁海面利用室発表)

水産庁遊漁海面利用室で平成16年釣り人行政関係の主な動きをとりまとめた「これは」釣り行政10大ニュース、といえるもので、記録として掲載しておきます

<平成16年の遊漁・海面利用行政の主な動きとデータ>

1 遊漁船業法施行後1年が経過

登録遊漁船業者数等(平成15年2月4日現在)業者数15,586/遊漁船数18,229/業務主任者数19,126

2 まき餌釣り規制見直し関係

平成14年12月のガイドライン通知後、7県(岩手、千葉、富山、静岡、岡山、徳島、沖縄)でまき餌解禁の調整規則改正。それ以前からの撒き餌釣可能19道府県と併せ、沿海40都道府県中26道府県で全部又は一部まき餌釣り可能。残る14道府県に於いても何らかの形で見直しを検討中。

3 佐賀関閘サバ遊漁調整

昨年11月、同海域で遊漁船と漁船のトラブルが生じたことをきっかけに漁業者側が従来の漁場利用協定を見直し遊漁船の操業禁止区域の設定を求めたことから、遊漁船業者側との対立が高まった。その後本年3月に至り、大分県の調停により漁業者と遊漁者双方が相互の操業を尊重すること、違反者に罰則を課すこと等協定の一部修正に双方が合意し事態は終息した。

4 特定外来生物被害防止法の制定(ブラックバス等問題)

生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及

ぼし又はその恐れのある「特定外来生物」の飼養、輸入等の規制、防除を目的とする「特定外来生物被害防止法」が本年6月公布(実施は公布後1年以内)特定外来生物に指定されると、飼養、栽培、保管、運搬、輸入、譲渡は原則禁止。研究、生業などのための利用は許可が必要。専門家会合で特定外来生物に指定すべき種の候補の選定が検討されており、魚類関係ではオオクチバス、コクチバス、フルーギルなど8種(全て淡水魚)が検討の対象となっている。

5 水産庁に「釣人専門官」が新設

平成16年10月1日、水産庁沿岸沖合課に「釣人専門官」を新たに設置。釣人専門官は、釣り人が関係する問題の統一窓口となり、水産庁内外の関係組織に釣り人の声を伝え、各種制度・事業に関連する横断的な対応を行うことにより、釣り人の持つ多様な価値観・意見を施策に反映させることを業務の目的としている。当面の活動は次の通り。

釣り人が地域で開催するシンポジウムや集会に参加する等、釣り人の意向や活動に関する情報収集と実態把握。このような会合への話題提供者としての参加要請等への積極的な対応。

6 SOLAS条約

テロ事件防止のための港湾施設等の保安確保を目的とするSOLAS条約を実施するための「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関す

る法律」が本年7月1日に施行。これにより国際航海船舶(国際航海に従事する旅客船と500トン以上の貨物船)と国際港湾施設(国際航海船舶が利用する岸壁や停泊地等)で保安措置の実施、港湾施設への出入り管理、監視、保安設備の設置、フェンス、照明等、保安規定の作成等が全国112の特定重要港湾・重要港湾で港湾管理者に義務付け。

今回の措置の遊漁への影響の程度は、各港湾管理者が策定する保安規定によってまちまちであるが、港湾によってはこれまで遊漁者が慣行的に利用してきた岸壁等の立ち入りができなくなったり、釣り大会が中止を余儀なくされるなど影響が生じている地域がある。なお、遊漁船の営業に影響が出ているとの報告は、これまで関係団体等から寄せられていないが、一部港湾で対象施設外の防波堤への立ち入り規制を強化しようとする動きもあり、防波堤への遊漁船への影響も予想される。

7 平成16年遊漁船業統計表

水産庁は本年10月、遊漁船業法改正後初の「遊漁船業統計表」を取り纏めて公表した。従来届出制の下で作成されていた(社)全国遊漁船業協会編集の「遊漁船業統計表」に代わるもので、データベースソフトを使い都道府県が提出したデータを遊漁・海面利用室で集計したもので。

8 第11次漁業センサス

農林水産省統計部は本年8月、第11次漁業センサ

ス(平成15年調査)の結果概要を公表した。海面における遊漁案内業者を利用した遊漁者数(延べ)は前回(平成10年)の1147万人から微増し1198万人であった。その他、内水面における遊漁者数(延べ)は前回の1315万人から958万人へと大きく減少した。

9 遊漁船業者の組織化の現況

遊漁海面利用室は、都道府県を通じ遊漁船業者の組織化の現状を調査しその結果を集計した。遊漁船業者総数は15,777でその内、13,241(84%)が漁協組合員(兼業者)、2,536(16%)が専業者。漁協組合員の内、漁協の中に設置された遊漁船部会に所属する者は4,761で36%。専業者の内、団体(専協、任意団体)に加入している者は1,279で50%。なお、漁協に遊漁船業者が所属している漁協総数は1,039で、その内遊漁船部会が設置されている漁協は217(21%)

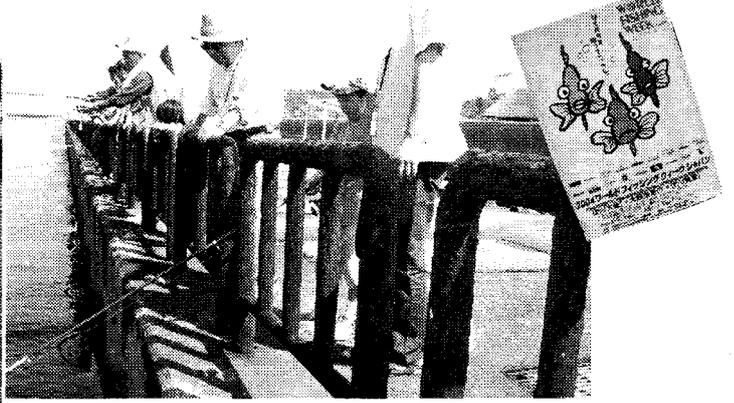
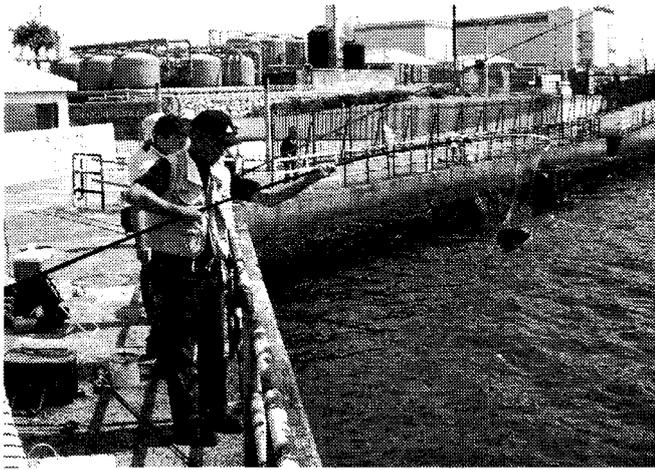
10 都道府県海面利用協議会の設置・開催状況

海面利用協議会は、海面における漁業と海洋性レクリエーションとの紛争の予防及び調整を図るため、平成6年の水産庁長官通知により設置されている。同協議会の総数は現在、全国で105であり、この内都道府県協議会が41、地区協議会が61、広域協議会が3となっている。平成15年度には延べ155回の会議が開催され、主に遊漁と漁業の調整問題が取り扱われているが、その他プレジャーボート、ダイビング、水上オートバイと漁業の調整問題も取り扱われている。同協議会は、遊漁者側・漁業者側の双方にとって重要な話し合いや取り決めの場として地域に定着しており、今後とも積極的な活用が望まれる。



南港魚つり園でWFW釣り大会&釣り教室

高木博文(事業部長)



04年9月12日「2004ワールドフィッシング・ウィーク・ジャパン」が大阪市住之江区の南港魚つり園で行われた。当日は曇りがちだったが、太陽も顔を出し残暑がきびしかった。大阪府下、近県から450人が参加し大変な盛況であった。

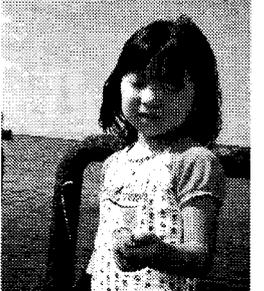
釣り大会の魚種は、チヌの部、コノシロの部、アジ・イワシの部、他魚の部の4部門。検寸は11~12時まで行われ、提出された魚はミリ単位で競われ、検寸担当者も汗だく。次々と持ち込まれる魚と格闘していた。

各部門の優勝者は、チヌは39.7cmで大阪西区の古山博史氏。コノシロの

部は19.6cm、南河内郡美原町の中山真ちゃん。アジ・イワシの部はイワシ12.2cm、枚方の高橋昌也氏。他魚の部はインガキダイ22.3cm、東住吉区の西本孝彦氏で、それぞれ各部門で表彰された。

南港魚つり園の加藤園長は「このような盛大な釣り大会は初めてです。魚つり園をもっと皆様にきていただけるよう、設備の充実につとめていきたい。これから秋が深まるにつれ、いろいろな魚が釣れますので、また来園してください」とコメントした。

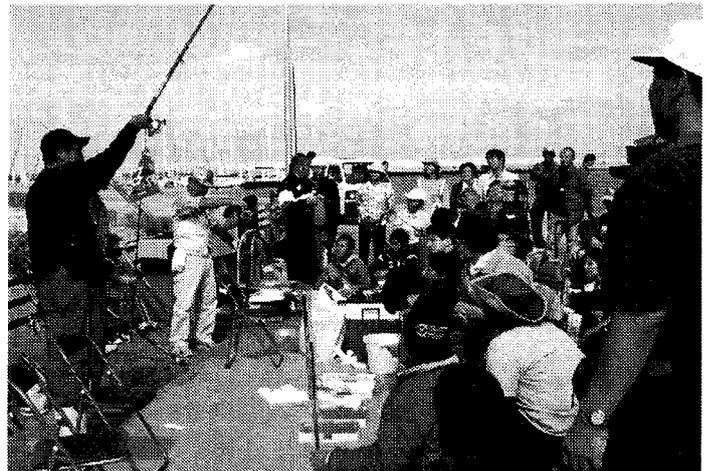
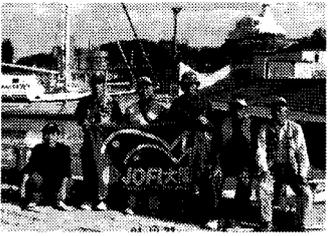
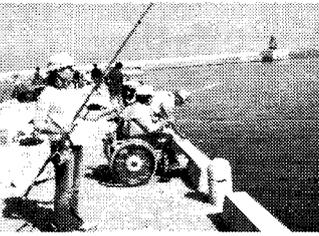
釣り教室では、釣りのベテランである、大阪府釣りインストラクターのメンバーが講師として、初心者たちに釣りのノウハウを手とり足とりマンツーマンで教えていた。



障害者海釣り大会に協力

馬谷 昆志(泉北・泉南支部)

泉北・泉南支部では10月23日、NPO法人「み・らいず」からの依頼による第4回バリアフリー釣り大会への協力をおこなった。協力に参加したJOFI大阪のメンバーは泉州・泉南支部の久保、高瀬、馬谷、日高、近藤支部長、那賀川支部長の6名。当日9時半、会場である淡輪ヨットハーバーに集合。障害者及びヘルパー50名に実釣の指導を行った。当日は好天に恵まれ障害者の方々は日頃体験のできない海釣りに興じスズメダイやクサフグに歓声を挙げていた。JOFIの各氏はサビキ仕掛けのセッティングやオマツリトラブル、バリコやハオコゼなどの毒魚の処置にと大活躍の上、14時、無事故で釣り指導を終了した。



報告 泉佐野市・海釣り教室 山崎勝彦(事務局)

今年も泉佐野市「海釣り教室」が開催されました。毎年8月から9月にかけての開催ですが、今年は講師の都合により、10月16日と10月23日の両土曜日に、釣りのマナーや仕掛け作りの講習があり、参加者は親子連れや初老の方が25名ほど集まり、熱心に講義を受けていました。

10月30日の土曜日に和歌山マリーナシティー海釣り公園で実釣会を行いました。当日は、前日からの雨天にもかかわらず17名の参加があり、午前7時に泉佐野市「生涯学習センター」の前に集まり、市のバスで和歌山マリーナシティー海釣り公園に出発しました。途中で餌や水を買ひ、午前8時に現地に到着。高木事業部長から、釣りのマナーやバリコなど毒のある魚の取扱いの注意を受け、実釣を開始しました。

我々も底取りの分からない人、リールの取扱いが解らない人やお祭りで困っている人らを個々に指導して廻りました。

やがて、慣れるに従って竿が曲がり始め、カワハギ、チャリコ、バリコ、ベ



ラなど小型ながら多種類の魚を釣り上げ、中には大きなカワハギを釣り、自慢して見せる子供も見受けられ、次第に盛り上がりしてきました。

この日は、アジやイワシの群れが見られず、数量的にはやや不満でしたが、多種類の魚が釣れ、全員が満足し、午前11時30分に納竿となりました。

最後に、記念撮影と釣り場の清掃をして「海釣り教室」を終了いたしました。

報告 和東町社会教育講座・釣り教室 山田讓(京都市南支部長)

7月3日(土)、和東町教育委員会主催の「海釣り体験教室」を神戸・平磯釣り公園で行いました。

今回は早朝5時和東町出発、平磯釣り公園で8時から12時の実釣スケジュールです。参加する方は和東町在住・在勤の親子20名。

和東町の釣り教室も7回目を迎え、毎年続けての参加者も多く、釣り実技も年々向上され、釣りが手際よくできるようになってきました。また私達インストラクターとも顔なじみの方が多く、楽しい釣り教室を開催することができました。

往路のバス車中にて、本日の釣り場状況、釣りのマナー・ルール、釣りの仕掛け、海の潮位のほか、当日の狙いの魚種などの説明を行いました。

平磯釣り公園に到着後、早速サビキの仕掛けを作り、釣りを開始。小型ながらイワシがよく釣れ子供たちの歓声があがりました。イワシの食いがわるくなると仕掛けを投げ釣り仕掛け、胴つき仕掛け、サヨリ仕掛けに

替えて釣りましたが、30cmクラスのサヨリやメバル、ガシラ、ベラなどがよく釣れました。

今回は昨年に比べ2週ほど遅い釣行となりましたが、赤ベラ・青ベラが釣れ、昨年に比べ釣果にも恵まれました。12時に釣り実技を終了。仕

掛けの片付け、釣り場の掃除を参加者全員で行い、帰途途中昼食をとり、16時に無事和東町に帰り、来年の再会を約束して解散となりました。

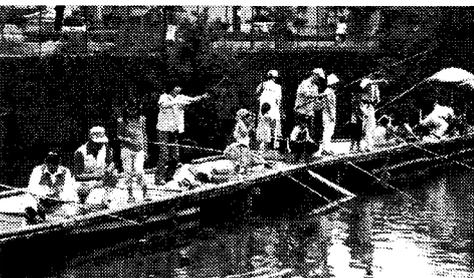
今回初めて早朝5時出発の企画となり、参加人数を心配しましたが、多くの参加がありインストラクターにとっても有意義な釣り教室となりました。

なお、当日はJOFI大阪・京都市南支部。吉川幾久雄、山田讓、続木大和、中田博彦の4名が指導にあたりました。



報告 やわたフィッシング教室 山田讓(京都市南支部長)

9月18日(土)、京都府八幡市教育委員会主催の「第10回八幡フィッシングスクール」が26名の参加者のもと開催されました。第3小学校で市教育委員長の開講挨拶の後、釣りの楽しさ、守るべきルール、淀川水系の魚種等の講義やインストラクターと一緒にコイ釣りの仕掛け作りを行いました。



昼食後は志水池での釣り実技です。好天に恵まれコイの活性も高く、40~60cmクラスのコイが次々と釣れました。コ

イが釣れる度に歓声があがり、参加者の嬉しそうな顔を見てインストラクター一同釣り教室を実施してよかったと思える一日になりました。

参加者は小学校入学前の幼少者から60から70才のお年寄りの方まで年齢層は広く、全員が熱心に終了時間まで釣りを楽しみました。

コイヘルペスの拡大でコイ釣りができるか心配していましたが、釣り教室がお世話になっている池には発生がなく、昨年通りコイ釣り教室を開くことができました。昨年に続いての参加者も多く、経験を活かして多くのコイを釣っていました。

当日はインストラクター7名(吉川幾久雄、中田博彦、続木大和、甲斐清渡、山田讓、中出隆文、太良木勇一)が釣り指導を担当し、釣り指導補助として3名(渡辺、能島、藤井)が出席しました。



3月30日、区民企画室の山口主査から「区民企画講座」として釣り教室の依頼があり、山口氏と企画を練る日が仕事の合間を縫って続き、平行してJOFI大阪東部の仲間とも仕事帰りに連絡を取り合いながら計画を進めた。

生野区民センターにて座学を、平成16年7月18日、25日、8月22日の計3回、実釣は9月19日に河内長野市「小深の里管理釣場」にてニジマス釣りをを行った。

何分、私も初めての企画であったので苦労もした。座学初日は参議院選挙で日程の件で迷った末に決定。また初日当日は我が地域では夏祭り、大半の参加親子も夏祭りの運営に参加するためにカリキュラムを短縮してスタートした。

第2回目、朝から暑かったが、参加された親子、インストラクターの皆さんも気合が入って、仕掛け作り、魚の種類、釣餌などなど、各講師のユーモアを交えた熱い話で会場は盛り上がった。慣れない指先で結びやサル管結びなど頑張った。中でも釣餌で生きたミズを使ったのだが、若いお母さん方は恐る恐る指で触りながらキャーキャーと賑やかであった。また今回は疑似針作りの体験として毛鉤を巻いてもらった。皆さん興味津々でハックルがきれいに開くたびに「やった、できた、虫みたい」とあちらこちらで歓声があがる。「もう少し作りたい」の声でセンターをお願いしてタイムオーバーさせてしまったが、前回の遅れを取り戻した。

第3回目、場所を区民センター大ホールに変えた。皆さん慣れてきたのか「おはようございます」と元気な挨拶がうれしい。釣り道具を知ってもらうため、各講師自慢の道具を持参し参加者に見てもらった。10mもあるア



ユ竿から投げ竿、ハエ釣りの仕掛等々多彩である。そんな中でも釣りボートまで会場へ運び込まれ、皆びっくり。子供たちは大喜びであった。釣りのマナー、ルール、安全についてもライフジャケットを実際に着用してもらい講義、実釣に向けての仕掛け作り、竿さばきの指導で3回分の座学を終えた。

9月19日実釣当日、早朝より天気予報が気になり表に出ては空を見る。「なんとか降らないでくれ」区民センターへ参加者が元気に集まりいざ釣り場へ。釣り場へ着くや各自先日作った自作の仕掛けを竿に結びワイワイとやっているがおかしい。まるで竿が曲がらない。各インストラクターも必死である。手を替え品を替えて悪戦苦闘…

やがて「キャー釣れた」「おっちゃんどうしよう」と。頑張って釣りを楽しんでいる。昼には釣れた魚を串に刺し、塩焼で食べてもらった。大変好評であった。

最後に参加者全員で釣場のゴミ拾い、釣竿などの片付けを実施後、区役所、参加者からインストラクターへ「ありがとうございました」の言葉で今回の釣り教室を終えた。多少雨もパラつき、魚の食いも渋い実釣であったが親子、地域のおっちゃん、区役所の方々が共にふれあえた今回の釣り教室を無事に終えられたことを喜んでいる。

最後になりましたが、今回の釣り教室には「手伝いをしようか? 行ってみてもいいか?」と多数のJOFI大阪の仲間の協力を得て元気付けられ最後まで頑張れたと思います。今後とも皆で協力して活躍していきましょう。暑い最中皆様ありがとうございました。

10月3日(日)、泉佐野食品コンビナートで「ファミリー釣大会」(主催:日釣振、大阪釣具共同組合(後援:水産庁、大阪府)が開催され、JOFI大阪から高木事業部長、馬谷事業部副部長、酒井広報部副部長、西谷さんと私の5名の会員が参加して、検寸・清掃に協力しました。6時に受付が始まり、270名余りの多くの参加者がありました。スズキ・チヌ・アジ・イワシ・ハゲ・ペラ・ガシラなど多くの魚が持ち込まれ、たいへん盛況でした。幼いお子さんが体より大きそうなクーラーを担いで来たり、手に大事そうに魚を持って検寸に来て、魚の大きさをじっと見ている姿が印象的でした。

子供達がこんなふうな夢中で釣りをし、楽しそうな姿に、昔私達もそうであった頃を懐かしく想い、またインストラクターとして、釣りの楽しさを伝え、今の環境を改善し守っていかなくてはいけないと思いました。

また、釣場清掃デーとして、ゴミを集めに廻りましたが、今年は大変少なくなり、釣人のマナーが少しよくなったのもありますが、地元の人が日々清掃していただいていると聞き、たいへん頭が下がります。最後に当日は事故もなく、みなさん無事で楽しく一日が終えられたことに皆様に感謝します。

釣り界の新しい動きは、こちらをご覧ください。

www.zenturi-jofi.or.jp

(社)全日本釣団体協議会のホームページです。外来魚問題や沿岸の釣りなど、釣り行政の動きを日々捕らえて全釣協としての姿勢、釣り人としての対応等についてまとめています。ぜひご覧ください。

